

教科等研究会（小学校特別活動部会）

令和3年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

互いの考えを出し合い、尊重し合いながら合意形成する特別活動
～社会参画、人間関係形成、自己実現のねらいを明確にした
集団活動の創造を通して～

2 研究経過

第1回			第2回		第3回			第4回		
6月	9名	広安西	8月	中止	11月	益城町立	天野佑紀	11月	御船町立	角田香織
18日		小学校	6日		19日	益城中学校	教諭	25日	小坂小学校	教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 主題設定の理由

これからの子どもたちには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、豊かな感性を持って自分と周囲の人、各々の生き方を認め合いながら、よりよい社会、よりよい人生をどのように切り開いていくかを自ら考え、実践できる力を身に付けていくことが重要となる。

特別活動では、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事等のよりよい集団活動を通して、学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育てていく。よりよい集団活動は、自分と異なる文化、習慣、生き方を認め合う土壌や協働性、集団への所属感、連帯感を育むことにつながる。それが学級文化、学校文化を醸成し、特色ある教育活動の展開を可能とする。

今回の学習指導要領の改訂では、小学校、中学校ともに(1)の内容を重視することが示されている。そこで、研究の主題を「合意形成」に焦点化し、改訂の内容に沿うものとした。「互いの考えを出し合い、尊重し合いながら」行う合意形成は、自分と異なる意見や小数の意見も尊重し、安易に多数決で決定することなく、折り合いを付けて集団としての意見をまとめていくことだ。これは、児童会活動やクラブ活動において自発的、自治的な活動を行っていく上での基盤になる。

このような合意形成を経て実践される集団活動は、互いのよさを集団の中で具体的に生かし、個性と集団を伸ばしていく活動に他ならない。よりよい集団活動を創造していく活動を通して、「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」が育成されているかという視点を明確にもって実践していくことが不可欠である。

② サブテーマ

ア 人間関係形成

人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成していくために、よりよい集団活動の中で、個人と個人、あるいは個人と集団という関係性を築いていくことが必要である。年齢や性別といった属性、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくることが大切である。

イ 社会参画

社会参画の意識は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決していくために、自発的、自治的な活動を行い、個人が集団へ関与する中で育まれる。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。学校内の様々な集団における活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていく。

ウ 自己実現

現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする集団活動を通して、自己のよさや可能性を集団の中で生かし、試していくことで、自己理解が進み、自己のよさを生かす力、自己の在り方生き方を考え設計する力などが育まれる。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 小学校と中学校、それぞれの学級活動を参観できたことで、それぞれの実態をとらえるよい機会となった。
- 「理由の可視化」という明確な視点を持って授業研究を行ったことで、焦点化された討議が実現し、学びの多い研究会となった。
- 学級会の授業を通して、決定のための条件表示など、安易に多数決で決定することがないような合意形成の在り方について議論を深めることができた。
- 学級会の中で発表や発言を苦手とする児童が、どのような形で話し合いに参加できるのか、研究を続ける必要がある。
- 学年に応じた「相手に伝わりやすい話し方」については、これから更に話し合い活動を重ねていく中で改善していく必要がある。
- よい分かりやすい「理由の可視化」に向けて、思考ツールの導入など、更なる研究を重ねる必要がある。

4 実践事例

(1) 授業の概要

題材の目標	(1) 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。 (2) 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。 (3) 生活上の諸問題の解決や協働して実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。
題材終了時の児童の姿	自分の役割を考え、学級会で決まったことをもとに、みんなで協力し、進んで活動に取り組むことができる児童
題材を通した学習課題	下級生を引っ張る5年生を目指して、「2年生のためにビッグドリームGP」を開こう。
働かせる見方・考え方	よりよい学級づくりのために、クラスの課題を捉え、互いの良さを認め合いながら、集団における活動に積極的に関わり、主体的に解決しようとする事。
児童の実態	(資質・能力に関して) 自分の考えを理由付けしながら話すことができる児童が多く、友達の意見を最後まで聞くことを意識している児童も多い。しかし一方で、友達の意見と自分の考えを比べたり、共通点を考えながら聞いたりする意識は低い。そのため、子どもたち同士の発表をつなぐことを意識して発表させたい。 (学びに関して) 7割の児童が学級会を好きであり、みんなで話し合いをして意見がまとまっていくことに喜びを感じている。しかし、話し合い活動が苦手な児童も3割以上いるため、自分の考えを持っていても、積極的に発言する児童に任せてしまっている児童もいる。事前に声掛けを行ったり、司会から発表を促したりすることで、全員が参加し、合意形成できる話し合い活動にしたい。
指導上の留意点	○児童が意欲的に話し合いを行えるように、活動の目的や意義をはっきりさせて提案理由を示すようにする。 ○自信を持って自分の考えを発表できるようにするために、事前に学級会ノートに考えを記入させ、あらかじめ内容を把握しておく。 ○話し合いを円滑に進めるために、事前に意見を短冊に書かせたり、司会の流れを確認したりしておく。 ○それぞれの考えをつなぎながら、考えを深められるように自分の立場が分かるような頭言葉を使って発言させる。 ○偏った意見だけにならないように、司会が違う意見がないか尋ねて発表を促したり、ペアで相談し合う時間を設けたりする。 ○今後も話し合い活動への意欲や多様な意見のよさを認め合えるようにするため、司会や記録の仕事ぶりや相手の考えや立場を理解した発言などを紹介し称賛する。また、題材全体の活動を通して実践と振り返りを大切にしていく。

授業者自評	<ul style="list-style-type: none"> ・反対する理由について分かりやすく示すために4つの視点に沿ってマークを色分けして板書したが、分かりにくかった。やはり、文字で書いて残すほうがよかったように思う。 ・児童が、「2年生のために」という思いを持って意見を出すことができていた。 ・発表する児童に偏りがあったため、全員が発表できるような話し合い活動にしていきたい。
協議より	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元計画がしっかりされていたため、議題について時間内に決定することができた。 ・司会グループの児童の動きがよかった。 ・拍手が多く、温かい雰囲気の中で話し合いをしていた。 ・導入時に読まれた、「2年生担任からの手紙」が効果的であった。話し合いに対する意欲が高まった。 ・手作りの「学級会ノート」を見ると、これまでの学級活動の積み重ねが見える。継続した指導と取組がよく分かった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員参加できるように、発表以外の意思表示ができるよう工夫するとよい。 ・主語をつけるなど、話し方のスキルを身に付ける必要がある。 ・合意形成について、4つの条件を満たせば決定でよかったのか、検討が必要である。 ・話し合い活動の前に、遊び方について全員が同じイメージを持っておく必要があった。遊びの体験をする機会があってもよかったのではないか。
まとめ 矢部中学校 富士川晶三 校長先生 蘇陽南小学校 永田裕通 校長先生	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の準備がよくなされ、話し合い活動では教師が前面に出ることなく、児童の力で話し合いを進めていくことができていた。それが、児童の意欲を更に高めることにつながった。 ・4つの条件があったため、合意形成に向けて建設的な意見が出しやすかった。意見の積み上げが見えた。 ・理由が可視化された板書が分かりやすかった。 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を「質問」場面から始めたのがよかった。大切なことである。 ・合意形成の在り方について、今回の話し合い活動では多数決を使っていない。条件をあらかじめ示した上で議論する、という今回の形は、課題も含めて多くの学びを得ることができた。これから、更に研究を深め、合意形成の在り方について検討を重ねていきたい。 ・柱の「九九を取り入れた遊び」という発想が素晴らしい。他の学年や教科でも応用して議題にできる。学級目標に沿っているのもよい。 ・2年生担任の手紙を読まれたことがよかった。担任間の協力がみえる。このように、学校全体で特活への意識を高めてほしい。

(2) 学習構想案

○本時の目標

2年生のためのビッグドリーム GP 開催に向けて、どんな内容にするのかを考え、多様な意見を認め合い、よさを生かし合いながら話し合うことができる。

○本時の学習展開

第6回 学級会 計画	
議題	2年生のためにビッグドリーム GP を開こう！
提案理由	ペア学年といわれる5年生と2年生がふれ合う機会が少ないから、仲良くなれるようにこの企画を考えました。さらに、5年生が遊びを計画することで、学級目標にある“下級生を引っ張る5年生”に近づくことができると思います。
話し合いのめあて	<ul style="list-style-type: none"> ○発表するときは、相手の目を見て話し、当てられた人以外はしゃべらずに話し合いをしよう。 ○2年生に、九九を好きになってもらえるような遊びを考えよう。

決まってい ること	○ビッグドリーム GP は、1月20日の3、4時間目に体育館で行う。 ○2年生が九九を楽しく覚えられる手伝いをする。(だれでもできる遊び) ○6つの遊ぶ場所をグループで回る(競技時間各10分) ○2年生にスタンプカードを作って、コンプリートを目指してもらう。 ○オリジナルのスタンプを5年生みんなで作る。		
過程	学習活動 (◇司会者の発言、・予想される児童の発言)	指導上の留意点と評価 (○：留意点、【】：評価)	備考
導入 7分	1 はじめの言葉 2 役割紹介 3 議題と提案理由の確認 4 決まっていることと柱の確認 5 めあての確認 6 先生の話	○司会グループに自分のめあてが言えるように事前に指導をする。 ○活動の意義や目的を確認できるように、提案理由を確認する。 ○話し合いへの意欲が高まるように、2年担任からの手紙を紹介する。	学級会 セット 学級会 ノート
展開	7 話し合い ◇柱は「九九を取り入れた遊びを何にするか」です。意見を発表してください。 ・的当てがいいと思います。的ごとに九九の問題をつけて、倒した問題の答えを2年生に答えてもらうようにすると楽しく遊べて、九九も覚えられると思います。 ・九九かるたがいいです。問題をたくさん出せて、4～5人で一緒に遊べるからです。 ◇今の質問についてみなさんはどう思いますか。 ◇○○という心配意見が出ました。改善策はありませんか。 ◇賛成・反対意見やいいところを取り入れてまとめるなどの意見を出してください。 ◇意見を聞いて、反対から賛成に変わる人はいませんか。 ◇話し合いの結果、○○ということになりました。これでいいですか。	○話し合いの時間を管理できるように、司会にタイマーを用意しておく。 ○賛成・反対が分かりやすいように、短冊の下にカードを貼っていく。 ○理由が分かるように、理由ごとに色分けをして板書をする。 ○賛成・反対の意見が出にくい場合は、児童が考えを整理できるように、近くの人と話し合う時間や考える時間をとる。 ○考えを比べたり、つなげたりすることを意識させるために、頭言葉を使って発言させる。 ○反対意見が出た場合は、司会が解決策はないか尋ね発言を促す。 ○意見に偏りがある時には、少数意見の良いところを賛成意見に取り入れられないか、司会がフロアへ尋ね解決を促す。	司会者 お助け カード
まとめ	【期待される学びの姿】 提案理由に沿って、一人一人の思いを大切にしながら、創意工夫を生かして活動内容について考えている。	【具体の評価規準】思①(観察) 友だちの意見と自分の考えを比べながら聞き、折り合いをつけながら提案理由を基に話し合っている。 (到達していない児童への手立て) 学級会ノートを確認させたり、友達の意見に対して、共通点や相違点を尋ね発表を促したりする。	
	8 決まったことの発表 9 振り返り 10 よかったことの発表 11 先生の話 12 おわりの言葉	○今後の活動意欲向上のため、司会の仕事ぶりや話し合いの仕方、発言内容について称賛する。	